

陸連時報 三

2019
令和元年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

ホクレンディスタンスチャレンジ2019大会報告(大会運営委員 木路修平).....	230
第217回国際陸上競技連盟(IAAF)、第93回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNシル会議報告(会長 横川浩).....	231
科学委員会活動報告(科学委員会 小山宏之/杉田正明).....	232
“日清食品カップ”第35回全国小学生陸上競技交流大会報告(指導者養成委員会 岸政智).....	234
キッズデカスロンチャレンジ 令和元年度岩国市スポーツ少年団 交歓会の開催について(指導者養成委員会 桜井 智野風).....	236
JAAFジュニアコーチ養成講習会報告(指導者養成委員会 副委員長 沼澤秀雄).....	237
施設用器具委員会報告(2019-1)(施設用器具委員会).....	238
JAAF RunLink 賛助会員活動報告.....	240
マラソングランドチャンピオンシップ.....	241
大会観戦ガイド.....	242
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2019大会報告

運営委員 木路 修平

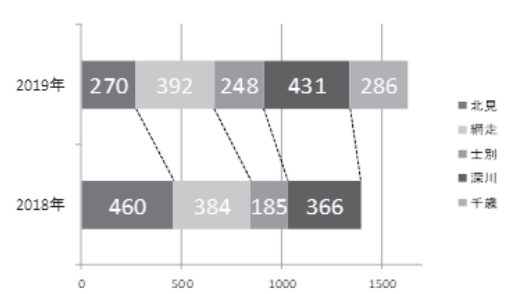
【はじめに】

本シリーズは「開催都市の観光促進、地域振興に繋がり、住民に喜ばれるイベントとして中長距離シリーズを開催し、国際競技会で活躍できる中長距離選手の育成・強化を図る」ことをコンセプトに開催され、本年度は17回目となる。運営には日本陸上競技連盟強化委員会スタッフが直接携わり、トップ強化戦略に基づく「Athletes First」の大会を目標にブラッシュアップに取り組んでいる。本年度は「①より良いコンディションでの開催及び平日の審判・運営業務の負担軽減に向けた1試合280人～300人の参加人数均等化、②トップレベルの記録更新を狙い、材料を持って参加する単なる記録会との差別化など大会の質の向上、③ワールドランキング制度の認知と対応」の3点を課題とし、具体的には、5大会制、資格記録の徹底および組編成、IAAFポイントを流用した表彰制度を取り入れた。千歳大会を新たに加えた本年度は、以下の日程で開催された。

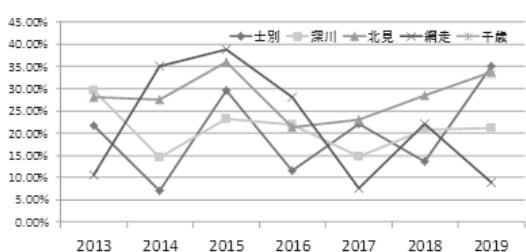
大会	期日	会場
千歳大会	7月6日(土)	千歳市青葉陸上競技場
深川大会	7月9日(火)	深川市陸上競技場
士別大会	7月13日(土)	士別市陸上競技場
北見大会	7月17日(水)	北見市東陵公園陸上競技場
網走大会	7月22日(月)	網走市営陸上競技場

【シリーズ総括】

5大会の参加総数は、1,627名であり、グラフの通り各大会の参加人数の均等化は、5大会制導入により進められたと考えられる。従来の深川、士別、北見、網走の4大会では、1,341人と昨年より過去2番目、深川、士別大会が過去最高の参加者数であった。



記録面では、自己ベスト及びシーズンベスト達成率が24.52%と過去2番目、大会毎では千歳、士別、北見が30%台、深川は20%と平年並み、網走は8.9%とコンディションに大きく影響を受けた。



千歳大会では、男子5000mはB組で佐藤 敏也選手(法政大)が13分38秒22、A組で延藤 潤選手(マツダ)が13分38秒74と13分40秒を突破した。また男子1500mA組で高橋 佑輔選手(北海道大学)が3分44秒43、B組で本間 楓選手(士別中)が4分00秒52の自己記録をマークし、北海道の選手の活躍が目立った。

深川大会では、男子1500m日本選手権優勝の戸田 雅希選手(サンベルクス)が日本記録に挑戦し、3分37秒90と惜しくも0.48秒届かなかったが、会場は非常に盛り上がった。男子10000mA組には井上 大仁選手(MHPS)をはじめとするマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)参加者が出場し、順調な調整経過を示してくれた。

士別大会では、男子5000mで的野 遼大選手(MHPS)が13分40秒44の好記録をマークした。また、日韓競技力向上スポーツ交流事業として、韓国選手団24名を深川大会と本大会に招待した。

北見大会では、男女2000mSCで楠 康成選手(阿見AC)、藪田 裕衣選手(大塚製薬)が日本記録を更新し、女子3000mでは惜しくも日本記録の更新はならなかったが、田中 希実選手(豊田織機TC)が8分48秒38の日本歴代3位の好記録であった。あわせて本大会と網走大会において競歩種目(男女5000m、10000m)、ブライント男女5000mを実施した。

網走大会は、終日風が強いコンディションの中、女子5000mは鍋島 莉奈選手(JP日本郵政グループ)が15分21秒40のドーハ世界選手権の参加標準記録を突破し、男子10000mでは大迫 傑選手(Nike)、佐藤 悠基選手(日清食品)、設楽 悠太選手(Honda)のMGC出場選手に対し、田村 和希選手(住友電工)が27分57秒14の2位(日本人トップ)と気を吐いた。MGC出場の3選手も9月15日に期待を持たせる走りを見せてくれた。

本年度、新たに設定した表彰制度において、男子は楠 康成選手(阿見AC)、女子は田中 希実選手(豊田織機TC)が初代シリーズチャンピオンに輝いた。また、インターネットを通じたLIVE配信を本年も5大会全てで実施し、昨年同様好評であった。

【来年度に向けて】

来年度は、日程及び開催種目において東京オリンピックのコンディショニング戦略とBeyond2020に向けた強化戦略の面から、本シリーズの重要性がますます高まり、明確な強化戦略に基づいた仕掛けが必要となると考えられる。そのため、参加選手、スタッフ側の日本陸連の強化トップが本シリーズの運営に携わっている意味と「Athletes First」の大会を目指す上での最低限のルールを守ることの重要性の意識共有を徹底していきたい。

あわせて、「みる」、「支える」全ての人たちの満足を得る仕掛けも進めていきたい

【最後に】

ホクレンをはじめとする協賛各社・団体、開催都市、主催、主管陸協のご支援、ご協力、またペースメーカーにご協力いただいた各チームのご理解により本大会が開催できましたことを心よりお礼申し上げます。

第217回国際陸上競技連盟(IAAF)、第93回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNシル会議報告

会長 横川 浩

第217回国際陸上競技連盟カOUNシル会議(2019年6月8日~9日)がモナコで、第93回アジア陸上競技連盟カOUNシル会議(2019年7月15日)がタイ・バンコクで開催されたので、IAAFカOUNシルメンバー及びAAA副会長として参加した。同会議の概要は以下の通りである。

第217回国際陸上競技連盟カOUNシル会議 概要

1. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から報告が行われ、ロシアドーピング問題調査に要した経費やスポーツ仲裁裁判所(CAS)への訴訟費用総額約320万ドルの支払い、それから、WADAが再検査を実施しているモスクワ検査所の分析データのAIU(Athletics Integrity Unit)への引き渡しという懸案事項2点については進展が見られたが、依然として懸念される状況が見られることから、資格停止処分を継続すると決定した。現状でも、ロシア陸連の役員がまだ隠蔽に協力し、活動禁止とされている役員や医師がいまだに活動している事例が挙げられ、今後の復帰条件としては、ロシア陸連が真にドーピング防止を徹底できるのか、加えて、選手が反ドーピング文化を受け入れ、取り組む事への担保が挙げられる。

2. IAAF総会及びコンベンション

総会は9月25日と9月26日午前中に行われ、まずは役員改選の投票が行われた後、IAAF本部、各エリア連盟、IAAF委員会や部会等の報告へと続く予定である。9月26日午後に行われるコンベンションでは、“より良い社会のための陸上”、“選手の為の陸上界”、“競技”、“ファンエンゲージメント”という4つのトピックスに重点を置いて、あらゆるステークホルダーが繋がる、情報発信、経験共有、意見交換の場が設けられる。

3. 新たなブランド

IAAFの新たな呼称とロゴがカOUNシル会議の場で承認され、今後は、総会での決議を経て、世界陸上ドーハ大会後から、“World Athletics”という新たな名前が正式に動き出す。2018年から新たなブランドの立ち上げが動き出したが、新ブランドは過去4年間の組織改革、ガバナンス強化に基づいて構築され、現社会に則したモダンでクリエイティブ、発展的な要素が打ち出されている。

4. 2020年東京オリンピックのマラソン選考競技会

国内選手権やマラソン選考大会(トライアル)がIAAFラベルのゴールドラベルの選手数の要件を満たしていれば、ゴールドラベルのステータスを与えられる事が承認された。つまり、同大会(日本であればマラソングランドチャンピオンシップ)で上位5位に入った選手は、参加標準記録を突破したものと見做され、各主催国は希望するのであれば、即時内定を発表することができる。今回の措置は、東京オリンピックの参加標準記録が大幅に変更になり、その発表が遅れたことによるもので、選手や各連盟への弊害を避ける目的で2020年に限って認められたものである。

5. グローバルカレンダー

大会のヒエラルキーを明確にし、オリンピック、トップレベルのIAAF主催大会、エリア選手権のカレンダーは開催5年前迄に、1 Day Meet(ダイヤモンドリーグ、コンチネンタルリーグ)は2年前迄に決定するように進める。

国内選手権の日程が重要であり、北半球各国の国内選手権は、次の日程で統一して開催する事を指す。

●オリンピック開催年: オリンピック陸上種目の始まる5週間~8週間前の間

●オリンピックの開催がない年: 世界選手権又はそれ以外の主要国際大会の3週間~6週間前の間

2021年から試験的に導入し、2022年或は2023年から本格的導入を目指す。最終的には、遵守されなかった場合の罰則導入等も検討して、徹底を促す。

6. コンチネンタルサーキット

ダイヤモンドリーグの下に、コンチネンタルサーキットを導入する。オセアニアから始まり、アジア、南米、北米、アフリカ、ヨーロッパと大会が大陸から次の大陸へと進み、その中で全ての種目

を網羅する。コンチネンタルサーキットにはランクを設け、ゴールド、シルバー、ブロンズ・リーグとする。ゴールドリーグの総数は10大会、ヨーロッパが5大会、その他のエリアが各1大会、ゴールドとシルバーを合わせて約25大会が想定されている。

7. ロードレース

2020年以降のラベルレースに関する構想が審議、承認された。新たな規則の下では、競技会外検査(OOCT)に対する財政負担を、大会主催者、選手代理人、選手が相応に負担することとなり、主な負担額は下記の通りとなる。

大きな変更の導入の背景には、ロードレースに於いてエリート大会選手のドーピング違反が多く発生し、競技の信頼性が危険にさらされていることが挙げられ、実際に2018年ゴールドラベル大会で調査を行ったところ、優勝選手の76%が、上位3位の選手の74%が大会前の6か月の間に、一度も競技会外検査を受けていないという実情がある。

●大会主催者:

(マラソンレース) プラチナ(\$66,667)、ゴールド(\$15,000)、シルバー(\$10,000)、ブロンズ(\$5,000)
(その他ロードレース) プラチナ(\$20,000)、ゴールド(\$10,000)、シルバー(\$5,000)、ブロンズ(\$2,500)

●選手代理人(AR): 選手1名あたり: プラチナ\$1,000、ゴールド\$500

●選手: 賞金の1.5%を大会主催者経由で支払う。プラチナレースの場合はこれに招聘費用の1.5%も追加される。

6. その他

●技術委員会から提案のあった競技規則第100条、169.5条の改定が11月1日付けで、第185.1条については、2020年11月付で施行される。

●競歩チャレンジ規定が見直され、2020年以降Cカテゴリーが廃止される。競歩チャレンジのスコアリング対象大会はカテゴリーA(WAS、オリンピック)とB(IAAFパーミット)のみになる。

●U20世界選手権(ケニア・ナイロビ)のタイムテーブルと参加標準記録が承認された。

第93回アジア陸上競技連盟カOUNシル会議 概要

1. アジア陸連のタイ・バンコクにあるタマサート大学内の新事務局の竣工式に合わせて、4月の選挙後、初の新体制で会議は行われ、組織としての明確な目標設定とそれに伴うアクションプランやタイムラインの早期作成が最重要課題であるという共通認識を新たにした。

2. 今後の課題としては、まずはAAA憲章の見直しが必要であり、IAAF憲章・規則とのアライメント、各ゾーン(アジア内の5地域)の憲章の見直しと策定が行われる。同等の重要課題としては、競技会の見直しであり、大会カレンダーの見直し、AAAが主催する各種大会のスクラップ&ビルドを行い、選手、ファンにとってより魅力的な競技会作りを目指す。更なる課題としては、インテグリティの強化、マーケティング戦略の見直し、ウェブを含めた情報発信力の強化、審判の教育とITOの増加、IAAFランキングシステムへの取組み、ADC(アジアディベロップメントセンター)のプログラムの拡充等が挙げられた。

3. 上記の組織目標を達成するために、コミッションが中心となって活動を強化するが、筆者はEthics Commissionの委員長に加え、Reform CommissionとMarketing & Finance Commissionの委員に選出されている。本連盟の尾崎貢専務理事がLegal Commissionの委員長に任命されている。

4. 今後のアジアの大会予定

アジアマラソン(中国): 2019年12月22日

2020年アジア室内選手権大会: 中国・南京(世界室内選手権のテストイベントとして開催)

2020年U20アジア選手権大会: タイ・バンコク

2021年アジアマラソン: タイ

科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)

小山宏之(科学委員会委員)、杉田正明(科学委員会委員長)

1. 活動内容

科学委員会では、国内外のトップ選手のデータの収集や調査・研究に加え、U18・U20世代を含めた競技者の育成・強化に資する情報を指導現場に提供する活動として、各世代の強化合宿や研修会等においてデータのフィードバック、講習会での講演なども行ってきている。本年度前半では、9月末から開催される世界選手権を最大のターゲットとするとともに、来年に迫った東京オリンピックに向けて、各種の競技会におけるパフォーマンス分析、マラソン・競歩におけるコンディショニングサポートや暑熱対策などを中心にサポート活動を行っている。以下に、今年度前半にパフォーマンス分析を行った主な競技会を列挙する(これら以外にも多くの競技会において活動を実施している)。

- (1) 第67回兵庫リレーカーニバル
- (2) 第53回織田幹雄記念国際陸上競技大会
- (3) 第35回静岡国際陸上競技大会
- (4) セイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪
- (5) 第103回日本陸上競技選手権大会
- (6) 第23回アジア陸上競技選手権大会
- (7) IAAF世界リレー2019横浜大会

各大会では主担当者を配置して活動を進め、測定したデータは各種目の担当委員が強化委員と連携をとりながらパフォーマンス分析とデータフィードバックを行っている。

2. パフォーマンス分析とフィードバックデータの例

ここではパフォーマンス分析の例として、跳躍班の活動から男子走幅跳のフィードバックデータの一部を紹介する。ここ数年の男子走幅跳は全体として競技力が向上しており、橋岡選手の2019アジア選手権、2019ユニバーシアードでの優勝、城山選手の2019アジア選手権、2018アジア大会での入賞、そして2018、2019年では5名の選手が8.00m以上の跳躍を行っている(2019年7月末時点)。跳躍班で

は10年以上に渡る継続的な測定結果から、助走最高スピード(以下、最高スピード)を高めることの重要性を示すデータをコーチ、選手、現場に提示するとともに、選手個々に応じた最高スピードの評価を行ってきた。

図1はその例として、様々な選手の分析結果による記録に対する最高スピードの標準値(目標値)と、個別のデータとして橋岡選手の助走における最高スピードと記録の関係を示している。橋岡選手は高校2年生(2015年)で出場した全国規模の大会から大学3年生(2019年)の現在まで5年間に渡って継続的に測定しており、測定試合数は計22試合を数える。

まず、図1の●は多くの選手の結果から得られた記録に対する最高スピードの標準値であり、より高い記録を達成するためには高いスピードが必要となってくることを示している。そして、橋岡選手の5年間に渡る測定結果を見ると、跳躍距離が7.00m台前半から、7.00m台中盤、7.00m台後半そして8.00m以上と高まっていくにつれて最高スピードが高まってきた傾向にあることがわかる。一方で、この関係にはバラつきがあり、同程度の最高スピードであるが記録が高い場合と低い場合があることも示されている。しかし、全体の傾向として、最高スピードの向上が記録の向上に貢献してきたことが個別の事例で見た場合に明らかとなってきたことは重要な結果である。

跳躍班では強化対象の選手に対して、より高い記録を得るために要求されるであろうと考えられる最高スピードを予測し、コーチおよび選手に提示する活動をここ数年間で行ってきた。図1に示した2本の回帰直線と、8.00m、8.20m、8.40mに示したマーク(2017年シーズン終了時、□; 2018年シーズン終了時、■)は、橋岡選手の最高スピードと跳躍距離の関係から推定した目標記録に対して要求されるであろうと予測した最高スピードである。例えば、2017年シーズン終了時での測定試合における公認の最高記録は8.05m

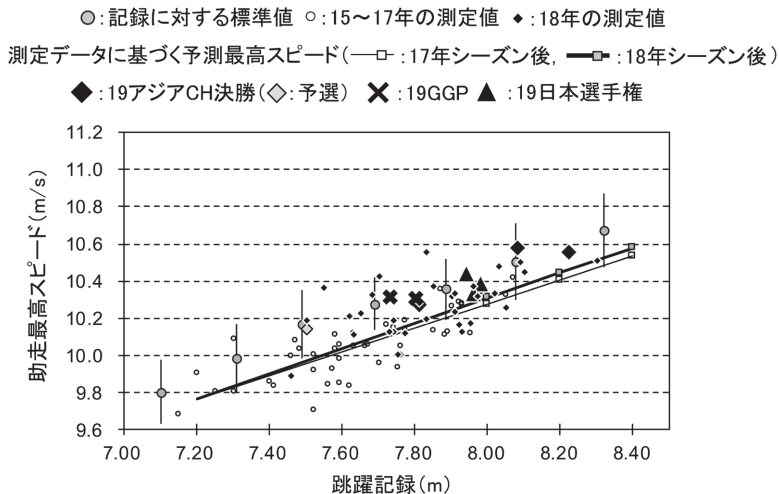


図1 橋岡選手の跳躍距離と助走最高スピードの関係

(2017日本選手権、最高スピード：10.32m/s)であったが、2018年において8.20～8.40m程度を跳躍していくためには、10.50m/s程度の最高スピードが必要になるのではないかと提案した。そして、2018年シーズンでは追い風参考(+3.4m/s)であったものの関東インカレで8.30mを記録し、その跳躍時の最高スピードは10.51m/sであった。この結果は、継続的な測定から予測した数値が妥当なものであり、選手個人が目標記録を達成するために要求されるベースライン(今回で言えば最高スピードのベースライン)を提示していくことが可能となることを示している。さらに2018年では、その他の試技の多くにおいても2017年までの最高スピードをこえた試技が出てきており、公認記録の最高は8.09mであったが、記録の大幅な更新を予兆させるものであった。2018年のシーズン終了時には2018年のデータを加えて要求されるであろう最高スピードの提示を再度行ったが、2017年までの予測とはほぼ重なるものであった。

2019年シーズンになり、橋岡選手はアジア選手権で8.22mの自己ベストを記録し、その時の最高スピードは10.56m/sであった。このスピードは2018年シーズンまでと比べて、公認の範囲内で最も高い助走スピードの跳躍であった(なお、アジア選手権3本目の8.08mでは10.58m/s)。ここでは細かい数値は示さないが、今シーズンは天候に恵まれずに記録が十分に伸びなかった試合もある中で(日本選手権など)、昨シーズンまでと比べて強い追い風がなくとも最高スピードが高まっている傾向にあり、日本記録(8.25m、1992年)の更新のみならず、世界大会でのメダル獲得レベルである8.30mを十分に超えていく可能性が高まってきていると考えている。さらに、風の条件が決して良くなかったドーハ世界選手権の会場での跳躍がこれまでで最もスピードが高かったことは、世界選手権を戦う上で注目に値する。

図2は2019アジア選手権で入賞した城山選手の最高スピードと記録の関係を示したものである。データの詳細な解説は割愛するが、城山選手も全体の傾向として最高スピードが高い時に記録が良い傾向にあることがわかる。さらに、ここでは城山選手の最高スピードと記録の関係を示す回帰直線に着目したい。城山選手の回帰直線の位置を橋

岡選手と比較すると、城山選手の方がより上に位置しており、このデータはある距離を獲得するのに対して2人が要求される最高スピードは異なっていることを示し、科学委員として選手個々の特徴をデータから抽出し、フィードバックを積み重ねていく重要性が表されていると考えている。

科学委員の跳躍班では、U18世代からシニア世代までの様々な競技会において、上位入賞選手のみでなくベスト8に入ることでできなかった選手と試技も含めて網羅的に分析を行ってきた。あくまでも全国規模の大会に出場できるレベルという条件がついてしまうが、これらの分析を10年以上に渡って継続することで、全体としておおよそ当てはまる標準値を提示するまでに至ってきた。近年、走幅跳では中国選手の活躍が目覚ましいが、中国選手のパフォーマンスもこの標準値の範囲内に収まっていることを確認している。一方で、選手個々で見た場合の関係は標準値のライン上に綺麗にのるわけではなく、今回の2選手で示したように個性があり、個々の選手の継続的な測定の積み重ねとフィードバックが重要であることをデータで理解しながら行っている。今後も、選手やコーチが競技を理解するための基礎となる全体の傾向を示すデータと個別の事例データの両者を蓄積し、提示していくことで、競技の普及と強化に貢献していきたいと考えている。

なお、今回は助走スピードの結果のみを紹介したが、走幅跳では踏切前のストライド(踏切4歩前からの接地位置)も継続的にフィードバックをしている。現場では多くの選手やコーチが踏切4歩前付近にマークを置き、踏切に向けた間合いの確認を行っている様子を目にするが、トップ選手がどのようなストライドで踏切に入っているかを陸上競技研究紀要で報告している(日本陸連HPより閲覧可能)。そちらのデータも一つの資料として参考にして頂きたい。

最後に、本報告で示したデータの一部には、日本陸上競技連盟科学委員会の活動として収集した以外にも、日本学生陸上競技連合、関東学生陸上競技連盟の協力により収集できたものも含まれている。競技の理解、普及、強化に役立つ資料として活用できていることも含め、心より感謝いたします。

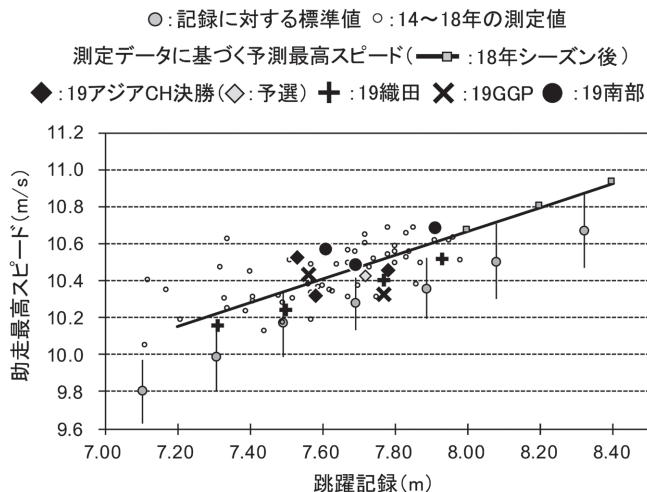


図2 城山選手の跳躍距離と助走最高スピードの関係

“日清食品カップ”第35回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 岸 政智

“日清食品カップ”第35回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者655名および監督コーチ141名の計796名を集め、2019年8月9日(金)より8月10日(土)までの2日間、横浜市日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテルを選手村として、大会・交流会・研修会を開催いたしました。“日清食品カップ”第35回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目～カップヌードルミュージアム 横浜見学

前日フリー練習・監督会議・指導者研修会～

1日目は、小学生の研修として、カップヌードルミュージアム 横浜の見学を例年通り実施し、競技場到着選手団から順次前日フリー練習としました。主競技場で100m・80mH・走幅跳・走高跳、補助競技場で男女混合4×100mリレー、投てき練習場でジャベリックボール投のフリー練習を行いました。

各選手団は競技場到着後、都道府県ごとの集合写真を第2曲走路インフィールドにて撮影しました。

フリー練習の一方、各選手団1名以上の指導者に参加していただき、監督会議を実施いたしました。日本陸上競技連盟(以下日本陸連)の尾縣専務理事より競技者育成指針に基づく今後の小学生陸上の在り方についてと、コンバインドA(80mH・走高跳)、コンバインドB(走幅跳・ジャベリックボール投)、男女混合4×100mリレーを取り入れた趣旨を説明しました。

監督会議に続き実施された指導者研修会では、日本陸連指導者養成委員会桜井智野風による、「小学生期の競技者育成」についての講義を行いました。その後、ゲストアスリートである中田有紀選手(日本保育サー

ビス)、ヘンプヒル恵選手(アトレ)、丸山優真選手(日本大学)の3名を紹介し、「どんな小学生だったのか」「指導者からの心に残った言葉」「混成競技の魅力」などの話しをしていただき、混成競技への熱い思いを感じました。各選手団は宿舎に移動し、1日目が終了しました。

第2日目～開会式・安藤百福記念章・競技・フレンドシップパーティ～

2日目は猛暑の中、開会式は予定通り競技場メインスタンド前で行われました。47都道府県の選手・指導者による堂々の入場行進がとてつもなく壮観でした。

整列後、ご来賓の皆様をご紹介した後、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長であり日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。引き続き、日本陸連会長横川浩登壇後、選手宣誓は神奈川県代表の櫻田直之君と杉崎朱里さんにより行われました。

開会式に続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献されました指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の表彰式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された47名の受章者に対して、日本陸連会長横川浩より記念章を、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様から記念盾が授与されました。

9時30分に女子コンバインドA 80mHから競技が開始されました。小学生アスリートの真剣な競技が展開され、トラックレースでは、適度な追い風と天候に恵まれて、6年女子100mで大会記録が出ました。

大会については、NHK・Eテレで8月25日(日)

15時30分から17時00分まで録画にて放映されました。競技結果につきましては、日本陸連のホームページにてご覧下さい。

例年、トップアスリートにプレゼンターをお願いしています。さらに、コンバインドが実施されるにあたり、前日の研修会に参加頂いた、中田選手、ヘンプヒル選手、丸山選手に加え、十種競技アジア大会2連覇中の右代啓祐選手(国土館クラブ)の4名の力強いナビゲーターの基、各種目がスタートしました。またプレゼンターとして、小池祐貴選手(住友電工)、



【写真提供：フォート・キシモト】

山本凌雅選手（JAL）、橋岡優輝選手（日本大学）、木村文子選手（エディオン）と豪華メンバーが終結し、入賞者に賞状・メダル・トロフィーを授与しました。

大会以外でも、西ゲート付近で「キッズデカスロンチャレンジ・通称デカチャレ」を実施しました。

そして、昨年に引き続き「フレンドシップパーティー」を実施しました。各都道府県の選手団がグラウンドに入場し、本大会のハイライト映像を大型ビジョンで見ながらフレンドシップパーティーがスタートしま

しました。プレゼンターの選手達には、選手団の目の前でデモンストレーションを行っていただきました。100mHの木村選手、走幅跳の橋岡選手、三段跳の山本選手にポイントや見どころを説明してもらい、デモンストレーション後、リプレイを見ながら解説をしていただきました。小学生選手たちは、解説はもちろんのこと、目の前のトップアスリートの一挙一動をしっかりと目に焼き付けていたと感じました。

次は、いよいよ100m日本人3人目の9秒台スプリンター、小池選手との対談です。最近良く話題に出る、試合直前の「ルーティーン」などは行わずレースに臨むとのことでした。次は200mの19秒台も視野に入れていると力強く目標を語ってくれました。

最後に小学生選手たちに、エールを送ってもらい無事に閉幕。退場は、昨年時間の関係で断念したトラック正面の階段を使用し直接スタンドに上がる「見送り」を実施しました。トップアスリートがハイタッチで見送る中、退場しました。退場までのわずかな時間で、同じ種目に出た者同士・他都道府県の選手に積極的に



話しかけバッチを交換する姿も多数見られ、小学生選手達にとって本大会はとても良いものになったと感じられました。

今年で35回を数える本大会は、来年度以降も、競技者育成指針や大会開催の基本理念（交流・研修を中心に考える）を踏まえ「アスリート・ファースト」を第一とし、形を変えつつもより良い大会に改善させてまいりたいと考えております。紙面ではございますが、今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社、日産スタジアム、また、大会主管の神奈川陸上競技協会の皆様、補助員として協力頂きました関東学連の皆様に対し心から厚くお礼申し上げます。



キッズデカスロンチャレンジ 令和元年度岩国市スポーツ少年団 交歓会の開催について

指導者養成委員会 桜井 智野風

2019年8月19日(月)に山口県岩国市愛宕スポーツコンプレックスカルチャーセンター内体育館にて、JAAFキッズデカスロンチャレンジin岩国が開催されました。キッズデカスロンチャレンジとは「キング・オブ・アスレティックス」と呼ばれる、陸上十種競技(デカスロン)にちなんだ、多種目の基本運動「走」「跳」「投」にチャレンジするプログラムです。国際陸上競技連盟では「キッズアスレティックス」として世界各地で開催されており、日本陸上競技連盟ではこれにアレンジを加えたプログラムとして全国で展開しています。様々な種目を組み合わせることにより、楽しみながら身体を動かす体験ができ、運動能力向上に向けたポイントを学ぶこともできます。今回の岩国開催では、①ラダースプリント ②ターゲットスロー ③10mダッシュ ④トリプルジャンプの4種目が行われました。



山口県岩国市スポーツ少年団交歓会のイベントとしての開催であり、陸上クラブ・陸上少年団のキッズだけではなく、野球、バスケ、サッカー、水泳、相撲、剣道、柔道、空手など様々なスポーツ団体に所属するキッズたちが「走跳投」

に挑戦しました。当初は新装なった55フィールド(愛宕スポーツコンプレックス陸上競技場)で行う予定でしたが、あいにくの雨のため体育館でのチャレンジとなりました。夕方からの開催でありましたが、体育館には小学校1年生から6年生まで男女合わせて約80名が元気に集まり、引率の保護者を合わせると150名ほどの人々が、体育館内に割れんばかりの歓声を響かせ、キッズたちは走跳投に汗を流しました。アジリティスラツやジャベボールといった、普段なじみのない道具を使った測定に加え、100分の1秒単位で測定可能な光電管を使用した10mダッシュや、3段跳びの合計距離で競うチーム戦など、初めての体験にキッズたちは満足げな表情で競技していました。



最後に、日本陸上競技連盟指導者養成委員会の山本浩委員長より「何よりもスポーツを楽しむみんなの笑顔が素晴らしかった」と講評しキッズたちに大きな拍手を送り閉会しました。

文末になりましたが、JAAFキッズデカスロンチャレンジin岩国を実施するにあたり、ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



JAAFジュニアコーチ養成講習会報告

指導者養成委員会 副委員長 沼澤秀雄

【指導者養成】

日本スポーツ協会（JSPO）の指導者資格制度の改定に合わせて、日本陸上競技連盟（JAAF）は2019年度より普及育成委員会を指導者養成委員会に委員会名称を変更し指導者養成を重要な事業項目として位置づけている。連盟は現在JAAFジュニアコーチ（以下ジュニアコーチ）と、JAAFコーチの指導者を養成しているが、ジュニアコーチは各都道府県からの申請により開催されており、2018年度は表のようにジュニアコーチ資格を517名に付与した。また、陸上競技については現在まで4404名のJSPO公認スポーツ指導

者が登録している（図1）。しかしながら、資格講習会を受講した半数の資格指導者が登録を行っておらず、さらに登録料を収めていない資格指導者も多数いることから、資格を付与した数と登録者数が乖離している。このような状況を改善して、有資格指導者を増やす施策を検討している。一方で、ジュニアコーチ資格講習の内容充実のために、幾つかのブロックから指導者養成委員会の委員を委嘱している。

〈2018年度ジュニアコーチ講習会の実績〉

		2018年
1	青森	37
2	福島	15
3	埼玉	27
4	東京1	106
5	東京2	68
6	新潟	17
7	滋賀	45
8	大阪	77
9	兵庫	29
10	和歌山	11
11	広島	20
12	山口	27
13	徳島	7
14	福岡	31
総計	14	517

〈2019年度JAAFジュニアコーチ講習会開催予定〉

2019年度は下記17会場にて開催する。（申し込み受付中）
 北海道・青森県・岩手県・宮城県・山形県・茨城県・
 東京1・東京2・新潟県・長野県・富山県・三重県
 大阪府・広島県・山口県・高知県・鹿児島県

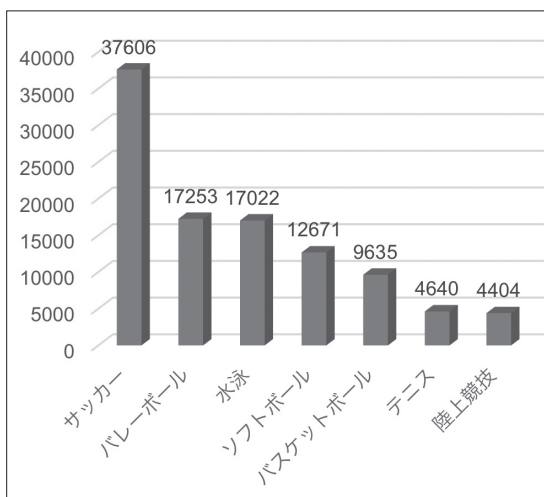


図1 競技別指導者数 (2018年10月1日付時点)
 ※日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録者数競技資格別一覧より



2019年度ジュニアコーチ東京会場1 集合写真

施設用器具委員会報告(2019-1)

施設用器具委員会

◆2019年度に公認した競技場及び長距離競走路

		9684	いわて盛岡シティ (長) 岩手県岩手大学構内～盛岡市中央公園敷地内広場 コード番号037350 ◆42km195 自転車計測 片道(一部往復)新設 2019.06.14～2024.06.13
9665	都立大井ふ頭中央海浜公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.03.31～2024.03.30	9685	仙台大学(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.06.20～2024.06.19
9666	法政大学多摩校地(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.04.30～2024.04.29	9686	木更津市菅江川(総)(陸) コード番号123280 第3種 400m 全天候 新設 2019.06.10～2024.06.09
9667	一橋大学(陸) 第4種 400m 全天候 継続 2019.04.30～2024.04.29	9687	上田古戦場(ハ) コード番号177250 ▽21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2019.07.01～2024.06.30
9668	ウェーブスタジアム刈谷 第3種 400m 全天候 継続 2019.04.01～2024.03.31	9688	下関市宮下関(陸) 第2種 400m 全天候 継続 2018.06.28～2023.06.27
9669	鹿児島県立鴨池(陸) 第1種 400m 全天候 継続 2019.04.01～2024.03.31	9689	いわき(長)福島県いわき市いわき(陸)～渚0番地駐車場内 ▽42km195 自転車計測 片道(一部往復) 継続 2019.08.08～2024.08.07
9670	奥出雲町三成公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.03.30～2024.03.29	9690	小江戸川越(ハ) ◆21km0975 10km 自転車計測 循環(一部往復) 継続 2018.12.10～2023.12.09
9671	名護市(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2018.10.05～2023.10.04	9691	八千代市総合(グ)(陸) 第4種(条件付) 400m 全天候 継続 2019.09.07～2024.09.06
9672	東京大学(陸) 第4種 400m 全天候 継続 2019.05.01～2024.04.30	9692	ヤンマースタジアム長居付設(30km) 大阪府ヤンマースタジアム長居 30km 21km0975 10哩 10km ワイヤー計測 周回 継続 2019.07.08～2024.07.07
9673	東京学芸大学(陸) 第4種 400m 全天候 継続 2019.04.22～2024.04.21	9693	高知県立青少年センター(陸) 高知県香南市野市町西野303の1 コード番号393050 第3種 400m 全天候 新設 2019.05.18～2024.05.17
9674	高山市中山公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.05.01～2024.04.30	9694	本渡(運)(陸) 第4種 300m 全天候 継続 2019.09.01～2024.08.31
9675	金栗杯玉名公認(ハ) ▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続 2019.05.07～2024.05.06	9695	新青森県総合(運)(陸) コード番号021020 第1種 400m 全天候 新設 2019.09.01～2024.08.31
9676	遠野じんぎすかん(ハ) コード番号037340 ◆21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2019.05.01～2024.04.30	9695-投	新青森県総合(運)(陸)付帯(投) 青森県青森市大字宮田字高瀬22の2 投てき場 新設 2019.09.01～2024.08.31
9677	津幡(運)(陸) コード番号194070 第4種(条件付) 400m 全天候 新設 2019.05.10～2024.05.09	9696	新青森県総合(運)補助(陸) 青森県青森市大字宮田字高瀬22の2 コード番号023210 第3種 400m 全天候 新設 2019.09.01～2024.08.31
9678	江戸川区(陸) 第3種 400m 全天候 継続 2019.05.24～2024.05.23	9697	大船渡市(10哩) 岩手県大船渡市民体育館前～市民体育館駐車場 ▽10哩 10km 5km 自転車計測 周回 継続 2019.08.28～2024.08.27
9679	土岐市総合活動センター(陸) 第4種(条件付) 400m 全天候 継続 2019.06.01～2024.05.31		
9680	堺市金岡公園(陸) 第2種 400m 全天候 継続 2019.05.31～2024.05.30		
9681	神戸総合(運)ユニバー記念(陸) 第2種 400m 全天候 継続 2019.06.15～2024.06.14		
9682	伊勢崎市(陸)付設(ハ) コード番号107150 21km0975 10km ワイヤー計測 周回 新設 2019.06.30～2024.06.29		
9683	円谷幸吉メモリアル公認(ハ) 福島県福須賀川市文化センター南側影沼橋～須賀川アリーナ ▽21km0975 10km 5km 自転車計測 往復 継続 2019.06.28～2024.06.27		

9698	高島(ハ)	山形県高島町役場 ▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続	2019.09.01 ~ 2024.08.31
9699	府中市民(陸)	東京都府中市寿町2の20 第4種(条件付)300m 全天候 継続	2019.08.01 ~ 2024.07.31
9700	神戸しあわせの村(20km)	兵庫県しあわせの村外周道路 20km 10km ワイヤ計測 周回 継続	2019.08.02 ~ 2024.08.01
9701	福岡県立久留米スポーツセンター(陸)	福岡県久留米市東櫛原町173 第2種 400m 全天候 継続	2018.07.30 ~ 2023.07.29
9702	伊万里(ハ)	佐賀県伊万里市市民センター前~エスポワール伊万里前 ▽21km0975 10km 自転車計測 循環(一部往復) 継続	2019.09.01 ~ 2024.08.31

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路

(2019.07.31 現在)

[北海道]	8911	紋別市(運)(陸) 第4種 400m	2018.08.14 ~ 2019.08.13
[北海道]	8891	白老町桜ヶ丘公園(陸) 第4種 400m	2019.06.01 ~ 2019.10.31
[山形]	8958	光洋精機アスリートフィールド長井 第3種 400m	2019.11.30 ~ 2020.05.31
[栃木]	8825	足利市総合(運)(陸) 第4種 400m	2019.04.01 ~ 2020.03.31
[埼玉]	8902	セントポールズ・フィールド 第4種 400m	2019.07.22 ~ 2020.07.22
[千葉]	8928	松戸(運)(陸) 第3種 400m	2019.10.01 ~ 2020.09.30
[千葉]	8929	国際武道大学(陸) 第3種 400m	2019.09.30 ~ 2019.10.31
[東京]	8817	日本大学(陸) 第4種 400m	2019.03.01 ~ 2020.01.31
[新潟]	8883	弥彦(10km) 10km	2019.05.12 ~ 2019.09.29
[石川]	8915	金沢(長) 42km195	2019.11.19 ~ 2020.05.30
[滋賀]	8750	栗東市野州川(運)(陸) -申- 第4種 400m	2018.09.01 ~ 2019.08.31
[京都]	8878	福知山市立桃映中学校(グ) -申- 第4種 300m	2019.07.26 ~ 2019.09.30
[兵庫]	8888	神戸総合(運)補助(陸) 第4種 400m	2019.06.15 ~ 2020.06.13
[広島]	8881	広島県総合(グ)補助(陸) 第4種 300m	2019.04.29 ~ 2020.04.28
[徳島]	8872	とくしま(長) 42km195	2019.06.01 ~ 2020.02.28
[愛媛]	9020	愛媛県総合(運)補助(競) 第3種 400m	2019.10.01 ~ 2020.03.31
[鹿児島]	8814	ランニング桜島(ハ) -申- 21km0975	2019.03.01 ~ 2019.11.30

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路

(2019.3.28 ~ 2019.07.31)

[群馬]	8846	太田市(運)(陸) 第3種 400m	2019.03.24
[東京]	8818	東京学芸大学周回路(10km) 10km	2019.02.24
[東京]	9557	新宿シティ(ハ) 21km0975	2019.07.17
[長野]	8865	上田市上田城跡公園(陸) 第4種 400m	2019.04.13
[富山]	8864	砺波市(陸) 第3種 400m	2019.05.19
[福井]	8871	スーパーレディース(30km) 30km	2019.03.31
[福井]	8877	若狭高浜はまなす(10km) 10km	2019.04.30
[愛知]	室内75	梅村学園室内棒高跳場 室内棒高跳	2019.02.28
[鳥根]	8899	鳥根大学(陸) 第4種 400m	2019.06.21
[長崎]	9105	長与町総合公園(運)広場(陸) 第4種 400m	2019.12.16
[熊本]	8820	上天草市松島総合(運)(陸) 第4種 400m	2019.02.28

◆名称変更のあった競技場及び長距離競走路

(2019.3.28 ~ 2019.07.31)

[秋田]	9109	秋田市営八橋(陸)⇒八橋(運)(陸)
[山形]	9088	長井市(陸)付設ながい黒獅子(ハ) ⇒光洋精機アスリートフィールド長井付設ながい黒獅子(ハ)
[岐阜]	8940	岐阜経済大学(陸)⇒岐阜協立大学(陸)
[和歌山]	9252	高野龍神スカイラインウルトラ ⇒高野山・龍神温泉ウルトラ(100km)
[大分]	9151	大分スポーツ公園大分銀行ドーム ⇒大分スポーツ公園昭和電工ドーム大分
[大分]	9152	大分スポーツ公園だいぎん(グ) ⇒大分スポーツ公園昭和電工(グ)
[大分]	9151-投	大分スポーツ公園だいぎんフィールド ⇒大分スポーツ公園昭和電工フィールド

◆新設の競技場及び長距離競走路

(2019.03.28 ~ 2019.07.31)

[青森]	9695	新青森県総合(運)(陸) ◎第1種 400m	2019.09.01 ~
[青森]	9696	新青森県総合(運)補助(陸) ◎第3種 400m	2019.09.01 ~
[青森]	9695-投	新青森県総合(運)(陸)付帯(投) 投てき場	2019.09.01 ~
[岩手]	9676	遠野じんぎすかん(ハ) ◆21km0975	2019.05.01 ~
[岩手]	9684	いわて盛岡シティ(長) ◆42km195	2019.06.14 ~
[群馬]	9682	伊勢崎市(陸)付設(ハ) 21km0975	2019.06.30 ~
[千葉]	9686	木更津市宮江川(総)(陸) ◎第3種 400m	2019.06.10 ~
[長野]	9687	上田古戦場(ハ) ▽21km0975	2019.07.01 ~
[石川]	9677	津幡(運)(陸) ◎第4種 400m	2019.05.10 ~
[高知]	9693	高知県立青少年センター(陸) ◎第3種 400m	2019.05.18 ~

JAAF RunLink 賛助会員活動報告

■ JAAF RunLink 賛助会員

JAAF RunLinkでは、スポーツ業界の常識である1業種1社の排他的なスポンサーシップ制度ではなく、趣旨に賛同する企業団体であれば、同業種問わずご参画いただける賛助会員制度を採用しております。一般的な組織を支援するだけの制度ではない、誰もが参画できる自由なプラットフォームを提供し、新しいランニングの価値や商品・サービスの創出といった、ランニング業界全体の底上げを目的とした、いままでにない新しいパートナーシップの形として再定義した先進的な制度です。

JAAF RunLinkの賛助会員数は、2019年8月末日時点で20社を超え、2018年11月のプロジェクトスタート以来、当初の予想を上回る好調なペースで増えております。今後も引き続き、JAAF RunLink 賛助会員の裾野を広げることで、ランニング人口の拡大および、ランニング・健康市場の活性化を目指して参ります。

■ JAAF RunLinkの基本コンセプト 「Fusion Running」

JAAF RunLink 賛助会員の基本的な考え方は「Fusion Running」です。走りながら音楽を聞いてテンションを上げたい人もいれば、走った後のビールが楽しみで走る人もいます。「Fuse Anything You Like into Running = あなたの好きなものをランニングに融合させる」をキーワードに、JAAF RunLinkでは、賛助会員の皆さまが有する価値とランニングに接点をもたらしていきます。

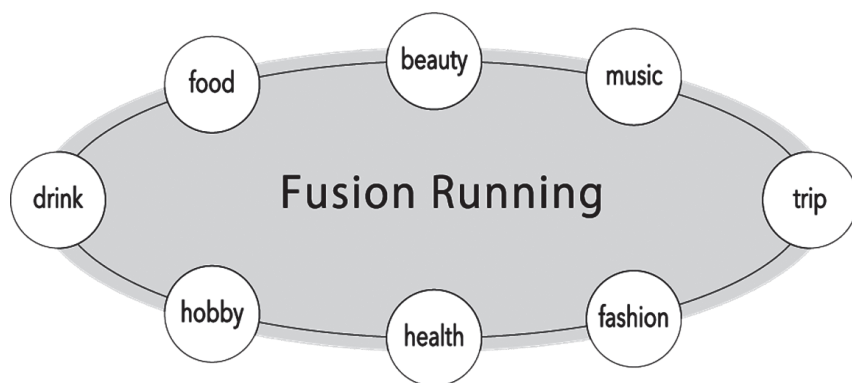
■ 対象

JAAF RunLinkの目的に賛同してその事業を支援することを希望する法人・団体で、所定の入会申請書を提出し、本連盟が承認した者を賛助会員とします。

■ 年会費（2019年度以降）

会費（毎年4月～翌年3月）の額は、以下の通りとします。

- ・一般法人・団体：年960,000円（消費税込）
- ・公益法人・公益団体・地方自治体等：無料



【ランナーのライフスタイルを支える企業 JAAF RunLink 賛助会員一覧】

アキレス株式会社	アシックスジャパン株式会社
株式会社KNT-CT グローバルトラベル	株式会社サニーサイドアップ
Strava Inc.	株式会社スペースマーケット
住友生命保険相互会社	ソニーモバイルコミュニケーションズジャパン株式会社
損保ジャパン日本興亜株式会社	株式会社電通スポーツパートナーズ
一般財団法人 東京マラソン財団	株式会社HIROTSU バイオサイエンス
株式会社フォトクリエイト	富士通株式会社
株式会社ニシ・スポーツ	株式会社ニューバランス ジャパン
パーソルキャリア株式会社	MYLAPS Japan株式会社
株式会社モンベルランエンタープライズ	ロクシタンジャパン株式会社
株式会社ワコール	

この日、日本代表が決まる。



MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

MEN >>>>> 8:50
WOMEN >> 9:10
コース：明治神宮外苑発着 START
(日本陸上競技連盟公認コース)

マラソングランチャンピオンシップ 東京2020オリンピック日本代表選考競技会 第13回日本陸上競技選手権大会
男子:TBSテレビ系列全国ネット、TBSラジオ(ラジオ中継)
女子:NHK総合、NHKラジオ(ラジオ中継)

主催/会費：日本陸上競技連盟
共催：朝日新聞社、産経新聞社、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
協賛：東京都、港区、渋谷区、新宿区、千代田区、文京区、中央区、台東区
運営協力：東京陸上競技協会、東京マラソン財団
特別協賛：東京地下鉄株式会社

2019.9.15
SUN.



大会観戦ガイド

第74回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を茨城・笠松運動公園陸上競技場で開催します！各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月4日（金）～10月8日（火）

▼会場：笠松運動公園陸上競技場

茨城県ひたちなか市向山大学佐和2197-28

▼アクセス：

- ・常磐自動車道 那珂ICより約6km
- ・東水戸道路ひたちなかICから約13km
- ・常磐自動車道日立南太田ICから約7km
- ・常磐自動車道東海PA スマートICから約4km
- ・JR常磐線佐和駅より約3.5km
- ・JR常磐線東海駅より約3.5km

▼種目：

【成年男子】100m、400m、800m、110mH、400mH、
10000m競歩、走高跳、三段跳、砲丸投、やり投

【少年男子A】100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、
走幅跳、ハンマー投、やり投

【少年男子B】100m、3000m、走幅跳、砲丸投

【少年男子共通】800m、110mH、5000m競歩、走高跳、
三段跳、円盤投

【成年少年男子共通】4×100mリレー

【成年女子】100m、400m、1500m、5000m、400mH、
5000m競歩、走高跳、棒高跳、砲丸投、円盤投、
やり投

【少年女子A】100m、400m、3000m、100mH、走幅跳

【少年女子B】100m、1500m、100mH、走幅跳

【少年女子共通】800m、400mH、三段跳、砲丸投、円盤投、
やり投

【成年少年女子共通】4×100mリレー

▼テレビ放映予定

NHK Eテレ

10月4日（金）15：45～17：00

※16：05～サブチャンネル

10月5日（土）15：15～16：30

10月6日（日）14：00～15：30

▼問い合わせ先：

「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会ひたちなか市実行委員会事務局

TEL：029-212-3471 FAX：029-212-3881

大会公式サイト

<https://www.ibarakikokutai2019.jp/>

JOCジュニアオリンピックカップ 第35回U20日本陸上競技選手権大会 第13回U18日本陸上競技選手権大会

U20・U18日本選手権を広島・広島広域公園陸上競技場で開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月18日（金）～20日（日）

▼場所：エディオンスタジアム広島（広島広域公園陸上競技場）
広島市安佐南区大塚西五丁目1番1号

▼アクセス：

- ・アストラムライン広域公園前駅下車徒歩10分
- ・山陽自動車道（五日市I.C. から沼田方面）より3分

▼種目：

【ジュニアの部】

〈男子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、
棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、
やり投

〈女子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、
棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、
やり投



昨年度の大会より（少年男子共通110mJHでU20アジア&日本タイをマークした岐阜・多和田旭）



昨年度の大会より（U20男子110mJHと三段跳の2冠に輝いた順天堂大・泉谷駿介）

【ユースの部】

〈男子 15種目〉

100m、200m、300m、800m、110mH、300mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

〈女子 15種目〉

100m、200m、300m、800m、100mH、300mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

▼問い合わせ先：

広島陸上競技協会

TEL：082-223-3256 FAX：082-222-6991

日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1373/>

4×100mリレー

*年齢区分：2019年4月1日を基準として満年齢によって、下記のとおり3区分する

A. 14歳以上～15歳未満（2004（平成16）年1月1日生～2004（平成16）年12月31日生）

B. 13歳以上～14歳未満（2005（平成17）年1月1日生～2005（平成17）年12月31日生）

C. 12歳以上～13歳未満（2006（平成18）年1月1日生～2007（平成19）年4月1日生）

▼入場料：1,000円（1日） ※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1372/>

第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！ぜひ等々力陸上競技場に足を運んで下さい！

▼日時：10月11日（金）～10月13日（日）

▼場所：等々力陸上競技場

神奈川県川崎市中原区等々力1-1

▼アクセス：JR武蔵小杉駅から徒歩20分、

JR南武線武蔵中原駅から徒歩15分、

東急東横線新丸子駅徒歩15分

▼種目

〈男子〉

区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

〈女子〉

区分A：100m、200m、3000m、100mH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、800m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、

第103回日本陸上競技選手権リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！

今年は福岡・本城陸上競技場で開催！ぜひ足を運んで下さい！

▼日時：10月26日（土）～10月27日（日）

▼場所：本城陸上競技場

福岡県北九州市八幡西区御開4丁目16-1

▼アクセス：JR若松線「二鳥」駅下車徒歩約23分

市営バス30番二鳥駅行「本城陸上競技場前」下車徒歩約3分

▼種目

【日本選手権リレー】

〈男子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

〈女子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

※特別種目として、U18男女混合4×400mリレー

▼問合せ先：日本陸上競技連盟

TEL：050-1746-8410 / FAX：050-3588-1869（土日祝日を除く10：00～18：00）

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1374/>



昨年度の大会より（ABC女子共通4×100Rで中学新記録を樹立した千葉県選抜）



昨年度の大会より（接戦の末、女子4×400mRを制した立命館大／右）

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室
TEL.077-527-3925 FAX.077-527-3925
http://srkshiga.com/

2024 国民スポーツ大会陸上競技会会場について

2024年に開催されます第79回国民スポーツ大会陸上競技会は、彦根市において開催され、会場となる陸上競技場は、設計段階を終了し、2023年春の供用開始を目指して進められております。主会場の完成が遅れる可能性もあるということの懸念もされておりますが、協会としては、23年9月開催のリハーサル大会（近畿陸上競技選手権大会を予定）に間に合えば十分であります。むしろ円滑な大会運営を実施するためには、施設設備の充足だけでなく、大会を効率的に運営できるシステムの導入やそのための審判技術の養成をしなければならないところです。残すところ4年余り。滋賀の歴史文化を継承し、親しみをもてる交流の架け橋となる競技場をめざして建設していただきたいことを願っています。

(文責：坂一郎)

JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

OSAKA 夢プログラム事業報告—DOHA2019⇒2020TOKYOに向けて—

1年を切った2020東京に向け大阪陸協が推進するOSAKA夢プログラムは全力疾走しております。7月同プログラム指定競技者の小池祐貴さん（住友電工）は、ダイヤモンドリーグ2019ロンドン大会において9秒98をマーク、日本人3人目の9秒台突入となる快挙を成し遂げました。また、同大会男子400メートルリレーでは同指定競技者の多田修平さん（住友電工）が第1走として小池さん、桐生さん、白石さんとバトンをつなぎ37秒78の好記録をマークしております。佐藤友佳さん（ニコニコのり）は、第130回日本陸上選手権大会女子やり投において62m88を投げ大きく成長、記録更新への期待が高まっています。DOHA世界陸上から2020東京に向けたOSAKA夢プログラム指定競技者の活躍に益々目を離せなくなりました。皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

9月全日本実業団対抗陸上 ヤンマースタジアム長居にて男子100メートルに新記録誕生か!!

世界陸上DOHA2019が間近に迫る中、9月20日から大阪ヤンマースタジアム長居では、第67回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会が開催されます。男子100メートルには有力選手がエントリーし、実業団の有力選手が一堂に会する本大会、高速レーンで知られる長居にて、日本新誕生のアナウンスが貴方の目の前で聞ける可能性に大きな期待が寄せられています。是非ともご来場ください。入場は無料。抽選会などのファンサービスも多数ご用意しております。(文責：讃岐)

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

6月18日(火)に定時評議員会が開催され、令和元・2年度の京都陸上競技協会がスタートしました。田中セツ子会長は5期目、伊東輝雄専務理事は4期目となります。選手育成強化と競技会運営の二本柱をこれからも大切にして協会の諸事業に取り組んでいきたいと、役員一同決意を新たにしています。

選手育成の面では、全国インターハイで洛南高校が2年ぶり8度目の総合優勝を成し遂げました。中でも走幅跳で高校生初の8メートルジャンパーとなった藤原孝輝選手は、男子最優秀選手に選ばれました。

協会運営面では、例年の全国高校駅伝・都道府県対抗女子駅伝・京都マラソン・全国車いす駅伝の準備が本格化してきています。これらに加えて、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」陸上競技に向けての準備を進めています。会場となる京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場は、8月1日から「たけびスタジアム京都」と名称が変わりました。また、2020年2月の京都マラソン終了後には、トラックやフィールドを含めた全面大改修を予定しています。施設の充実が京都の陸上競技界の更なる発展へとつながっていくことを願っています。

執筆者：(文責：広報・情報処理部長 相模浩史)

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

全国各地で異常気象のため、被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。

一般財団法人兵庫陸上競技協会として、5期目に入り新しく協会役員が決定しました。そして、一般財団法人兵庫陸上競技協会定款及び運営細則等の見直しを考えています。今年度も、兵庫春季記録会を2会場(ユニバー記念競技場・姫路陸上競技場)に分かれて、実施しました。働き方改革の観点からも競技役員に優しい競技会をめざしています。

4月20・21日に、第67回兵庫リレーカーニバル(グランプリ プレミアム)が開催されました。本年度は、観客に見せる競技会をめざし、リレー種目決勝チーム紹介を第4コーナー特設ゲートからの入場紹介を実施しました。選手たちは、サプライズ感覚で急遽ポーズ等を考え大変喜んでいました。後日出場チームにアンケートを取り大変良好で、来年度も実施してほしい意見が多数であった。また、出場できなかったチームも来年は決勝に、進出したいとの意見もあった。来年度もAAAエリアパーミットに向けて準備しています。

強化委員会も強化合宿も終了し、茨城国体天皇杯、皇后杯上位入賞めざし調整中です。

第9回神戸マラソンが11月17日(日)に開催されます。約78900人の申込があり、抽選でフルマラソン20000人にさせていただきます。昨年度、IAAFプロンズラベルを取得し、シルバールレーをめざし海外選手も多数参加します。選手の皆様が快適に走れるように準備しております。また、姫路マラソンがMCCへの参加を考えています。

(文責：宮永正俊)



陸協NEWS



一般財団法人奈良陸上競技協会

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号
TEL.0742-27-2312 FAX.0742-27-2312
<http://www.narariku.com/>

今年度は、当協会の役員改選年に当たります。会長以下大幅に役員
の改選がありましたのでご報告いたします。

- 名誉会長：藤井 昇、森岡正宏
- 会長：田野瀬太道
- 副会長：上田忠和、中窪章二、吉川元祥
- 専務理事：山岡道弘
- 副専務理事葛本義人：中森 徹、土谷宗伯
- 競技部長：中井 光 ○審判部長：安達昌広
- 普及部長：丸鬼正光 ○施設検定部長：川嶋智史
- 事業部長：林 潤 ○指導者育成委員：梅本公士

以上、新しく役職に就いた理事です。
近年の競技力低迷を新しい発想や取り組みをもって改善していきたいと奮闘しております。今後とも御指導の程よろしくお願いいたします。

さて、競技力の強化が望まれる本協会ではありますが先日終了いたしました全国中学総体では、田原歩陸君（平城東）が、110mHで13秒74の日本中学新記録で優勝しました。また、全国高校総体では、奥村梨里佳さん（添上）がハンマー投げで56m79の大会新記録で優勝するなど顧問の先生やコーチ・指導者の取り組みが徐々に開花してきたものと感謝の気持ちで一杯です。

今後は、昨年までの、「指導者育成事業」や「タレント発掘・育成」をいっそう進め視野を広げていきたいと考えております。



一般財団法人和歌山陸上競技協会

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内
TEL.073-444-3662 FAX.073-444-3662
<http://wariku.com/>

和歌山陸上競技協会ジュニア強化部では、現在毎週・火曜、水曜の二日間「17時から19時」の時間帯で、紀三井寺公園陸上競技場において、トレーニングセンターを開会いたしております。季節によりナイターでのトレーニングとなり小学生から一般社会人までの幅広い年齢層から多数の参加者を得て盛大に開催しております。特に、当協会として、ジュニア層の強化を目指して積極的に取り組んでいます。

昨年の都道府県対抗男女駅伝競走大会では、男子第9位と近年にない好成績を納めることができました。中学生・高校生力の走力が好成績に繋がりました。このトレーニングセンターの成果だと信じております。

先の8月21日から24日までの期間において、大阪市のヤンマースタジアム長居で開催された、第46回全日本中学校陸上競技対校選手権大会の女子4×100mリレーで県立桐蔭中学校が47秒04の中学校日本新記録で優勝致しました。これまでの日本記録を0.26秒短縮し10年ぶりに記録を更新する快挙を成し遂げてくれました。すばらしいパフォーマンスが日本記録を作り上げたものと確信致しました。

また、和歌山陸上競技協会創立90周年を迎え記念行事も滞りなく終了いたしました。本協会は、1928年6月に初代会長、西田郁平「修平氏の実父」が就任し発会いたしました。この間、1940年には戦時体制下となり、学校のスポーツ活動が軍事教練化と苦しい状況が続いた時期でありましたが、終戦後は先人各位のご努力により幾多の厳しい状況を克服して、現在の協会にいたっております。本協会は和歌山県の陸上競技の組織を統轄し代表する団体として和歌山県の陸上競技の普及と振興並びに競技力向上を図り和歌山県のスポーツの振興と県民の心身の発達に寄与することを目的として活動を続ける所存であります。よろしくご指導下さるようお願い申し上げます。

(文責：副会長 中村勝久)



一般財団法人鳥取陸上競技協会

〒680-0944 鳥取市布勢146-1
コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場（第2研修室）
TEL.0857-28-6540 FAX.0857-28-6540
<http://www.hal.ne.jp/trk/>

2019年度も異常気象で大会の中止、延期等を想定しながら何とか無事に大会開催が出来ております。大会が予定通り開催できることの喜びを改めて噛みしめております。GP大会となった布勢スプリントで今回新たな発見がありました。

6月2日に開催された大会では高山峻野選手が男子110mHで13'36の日本タイ記録を樹立。桐生祥秀選手も10'05の好タイムで走り、7,000人以上の観衆を興奮の渦に巻き込みました。当日は終日向かい風のため、バックストレートでレースを実施しました。観衆の多くはバックスタンドに移動して声援しましたが、相当数の観客はメインスタンドから動きませんでした。メインストレートで日本一流の競技者がW-UPをしているからでした。桐生選手や土井選手が何本も何本も走る姿を、高山選手が木村選手が目の前で何本も何本も跳ぶ姿を見ていたのです。「これはこれで面白いな」と思いました。白熱したレースが楽しめるだけでなく、一流アスリートのW-UPも見られる大会が布勢スプリントです。ジュニアアスリートや指導者にとっては、格好の研修の機会ともいえる大会でもあります。毎回フィールドとバックストレートがW-UPエリアですから、いつでも一流アスリートの練習風景を見ることができず。TOKYO2020にはジャマイカチームが事前キャンプに訪れます。2015年の北京世界陸上事前キャンプではあのアサファ・パウエルが練習中に嘔吐しながら150m走に鬼気迫る形相で取り組んでいました。世界一のスプリント軍団の聖地「布勢陸上競技場」にお願いいたします。

(文責：専務理事 新田明彦)



一般財団法人島根陸上競技協会

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内
TEL.0852-23-6686 FAX.0852-23-6686
<http://www.shimariku.jp/index.html>

- ・平成31年・令和2年度の一般財団法人島根陸上競技協会の新役員が決まりました。
- 会長：細田重雄、副会長：森脇幸好・速水雄一・青木敏章・山崎晃・豊田嘉男・斎藤重徳、専務理事：赤名磨己、常務理事：井上充・持田清道・矢野力・島田正大・清水慎宏・目附直人・別所美喜子、監事：福田磨寿穂・高野正次、評議員：森脇宏志・錦織伸行・持田信治・新田康二・高平重也・三島正彦・花原良治・石田恭二・大前昭治・岩本康幸、以上よろしくお願いいたします。

・青山聖佳（大阪成蹊AC）（松江商業高校出身）復活
今年6月の日本選手権女子400m3年ぶりの優勝。世界リレー横浜4×400mR出場と活躍を見せた。高校3年時の山梨IHにおいて、山陰両県勢初の短距離（200m、400m）2冠を達成。その後大阪成蹊大学進学し、その年の世界選手権（北京）にて4×400mRで1走を務め、日本記録更新。と華々しい活躍を見せたが、その後低迷期を迎え、本人も大変苦しい時期であったと思われる。ドーハ2019世界陸上競技選手権大会4×400mRの代表選手として活躍を心より祈るところです。2020東京へ島根県民期待の星である。

・12月1日（日）国宝松江城マラソン2019開催。
昨年第1回大会を開催し、晴天にも恵まれ5012人が出場し4724人が完走を遂げた。

今年には森裕子さんをゲストランナーを迎え8：30松江市総合体育館を出発し、市街地を走り国宝松江城、宍道湖、中海、大根島、べた踏み坂と風光明媚なコースを約5000人が駆け抜けました。大会が成功裏に終わることを期待しています。

(文責：総務委員長 矢野 力)

事務局からのお知らせ

◆◆9月27日よりカタール・ドーハにて開催！ドーハ2019世界陸上競技選手権大会◆◆

9月27日(金)～10月6日(日)の10日間にわたり、「ドーハ2019世界陸上競技選手権大会」がカタール・ドーハで開催されます！

日本陸上競技連盟公式WEBサイト、公式SNSでは世界陸上競技選手権大会日本代表選手の結果や情報を随時更新し、ファンの皆さんにお届けいたします。アスリートと一緒に応援しましょう！

【公式WEBサイト】

代表選手プロフィール&メッセージ、日本人選手全成績や最高記録&最高順位など情報満載でお届けします。

<https://www.jaaf.or.jp/>

【公式SNSアカウント】

Twitter (@jaaf_official)、Facebook (@JapanAthletics)、Instagram (jaaf_official) にて結果、競技写真、選手情報などを随時配信いたします。



◆◆2019日本グランプリシリーズ 残り3大会！！ 激闘 #超人スタジアム◆◆

4月から始まった2019日本グランプリシリーズも残すところ3大会となりました！

記録や順位などをポイント化しシリーズポイントとして定め、年間のシリーズを通してそのポイントにより、男女それぞれの全種目総合のトップ「シリーズチャンピオン」と「種目別チャンピオン」を表彰します。

シリーズチャンピオンには、強化費および翌シリーズの招待選手の権利などが贈られ、2019年末に行われるJAAFアスレティックス・アワード2019で表彰します。

熱い闘いを是非スタジアムでご覧ください！

- ・Denka Athletics Challenge Cup 2019 2019年10月19日(土)開催
公式HP：<https://denka-challenge.jp/>
- ・第16回田島直人記念陸上競技大会 2019年10月20日(日)開催
公式HP：<http://yaaf.jp/>
- ・第41回北九州陸上カーニバル 2019年10月26日(土)・27日(日)開催
公式HP：<http://kitakyushu-rc.com/>

〈日本グランプリシリーズ特設サイト〉
<https://www.jaaf.or.jp/gp-series/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 麻場 一徳 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869